

【二月の言葉（平成三十年）】

ありがたさの発見

あたりまえのことに感動と感謝を！

私たちはいま、眼が見え、耳が聞こえ、手足が動きますが、あたりまえではないのです。おかげさまなのです。あたりまえと思う生活には、感動も感謝ありません。問題は、私たちのものの見方が、自分中心にしかできないことです。

星野富弘さんに『あたりまえ』という詩があります。

「こんなすばらしいことを みんななぜ喜ばないのでしょう
あたりまえであることを

お父さんがいるお母さんがいる

手が二本あつて足が二本ある

行きたいところへ自分で歩いていける

手を伸ばせば何でもとれる 音が聞こえて声が出る

こんなしあわせはあるでしょうか

しかし誰もこれを喜ばない

そのありがたさを知っているのは

それをなくした人たちだけ」